

要約カードをつくろう

小5／要約に 入れなくてよい 文が 2つ あります

4 / 5

なまえ

ひづけ

こうほの 語は どれも 本文に 1回だけ 出て きます。要約を 作った あと、この 要約に 入れなくてよい 文の ばんごうを 2つ 書きましょう。

木から炭へを 読んで、答えましょう。

- ① 黒くて軽い燃料を作る仕事が、山の近くにあった。
- ② 山から切り出した木を、同じ長さにそろえる。
- ③ そろえた材を、土や石で作ったかまにすきまなく積む。
- ④ すきまが多いと、中の温度が上がりにくい。
- ⑤ 積み終わったら、入り口をふさぐ。
- ⑥ 空気がたくさん入ると、すべてもえて白いはいになってしまう。
- ⑦ 少しだけ口を開け、下から火を入れる。
- ⑧ 中の材が、外側から少しずつ熱せられる。
- ⑨ 空気が足りないので、材はもえきらずに黒く変わる。
- ⑩ このむし焼きが、水分と気体を外へ追い出す。
- ⑪ 出ていく気体は白いけむりとなって立ちのぼる。
- ⑫ けむりの色がすき通ってきたら、火を止める合図である。
- ⑬ 口を土でふさぎ、そのまま何日も冷ます。
- ⑭ 残ったものが、軽くて固い炭に変わる。
- ⑮ これが、けむりを出さずに長い時間もえる。
- ⑯ たとえば、昔の家では冬のだんぼうに用いられていた。
- ⑰ また、においや色を取る性質もあり、水をきれいにする。
- ⑱ 作るときの温度で、固さや火のつきやすさが変わる。
- ⑲ よくかわいた材を使うほど、質のよいものができる。
- ⑳ 森から生まれた黒いかたまりが、くらしを支えてきた。

こうほ（この 中から 3つ えらんで □ に 書く）

水分

かま

性質

むし焼き

はい

木

炭

要約カード

は、 によって、 になる。

□には、こうほから えらんだ 語を 左から 順に 入れる。

この 要約に 入れなくてよい 文の ばんごう（2つ・じゅんぷどう）

「たとえば」「また」で はじまる 文は、くわしい 例や つけ足しです。

🔍 いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「読解プリント」のプリント一覧がひらきます



要約カードをつくろう【こたえ】

小5／要約に 入れなくてよい 文が 2つ あります

4 / 5

なまえ

ひづけ

赤い線を ひいた 文に、ぬき出す語が 1回だけ 出てきます。
書き入れた語が 本文と 同じ書き方（送りがなも同じ）なら ○。

木から炭へ

入れなくてよい 文 … ⑯・⑰

- ① 黒くて軽い燃料を作る仕事が、山の近くにあった。
- ② 山から切り出した木を、同じ長さにそろえる。
- ③ そろえた材を、土や石で作ったかまにすきまなく積む。
- ④ すきまが多いと、中の温度が上がりにくい。
- ⑤ 積み終わったら、入り口をふさぐ。
- ⑥ 空気がたくさん入ると、すべてもえて白いはいになってしまう。
- ⑦ 少しだけ口を開け、下から火を入れる。
- ⑧ 中の材が、外側から少しずつ熱せられる。
- ⑨ 空気が足りないので、材はもえきらずに黒く変わる。
- ⑩ このむし焼きが、水分と気体を外へ追い出す。
- ⑪ 出ていく気体は白いけむりとなって立ちのぼる。
- ⑫ けむりの色がすき通ってきたら、火を止める合図である。
- ⑬ 口を土でふさぎ、そのまま何日も冷ます。
- ⑭ 残ったものが、軽くて固い炭に変わる。
- ⑮ これが、けむりを出さずに長い時間もえる。
- ⑯ たとえば、昔の家では冬のだんぼうに用いられていた。
- ⑰ また、においや色を取る性質もあり、水をきれいにする。
- ⑱ 作るときの温度で、固さや火のつきやすさが変わる。
- ⑲ よくかわいた材を使うほど、質のよいものができる。
- ⑳ 森から生まれた黒いかたまりが、くらしを支えてきた。

要約カード

木

は、

むし焼き

によって、

炭

になる。

□には、こうほから えらんだ 語を 左から 順に 入れる。

できあがる要約 … 木は、むし焼きによって、炭になる。

⑯・⑰は、しくみを くわしく 言いかえたり つけ足したり している 文だから。

まるつけの ポイント

3つの語が そろって 入っていれば ○。順番が ちがうと ×。

言いかえた語（「木」を「材」など）は ×。本文の 書き方どおりに 写す。

⑯・⑰のように「たとえば」「また」で はじまる 文は、くわしい 例や つけ足しなので 要約に 入れない。
入れなくてよい 文が 2つの ときは、書く じゅんばんが ちがっても 正かい。